

【出品予定作家】

赤穴宏、麻田脩二、麻田鷹司、麻生三郎、カレル・アペル、荒川修作、アンス・アルトゥング、伊沢宏子、伊藤久三郎、伊藤隆康、井上有一、猪原大華、今井俊満、岩田重義、上前智祐、大西茂、大野俣嵩、岡部嶺男、岡本太郎、荻太郎、小野忠弘、郭徳俊、ジュゼッペ・カポグロッシ、フランコ・ガレツリ、河井寛次郎、川端実、菊畑茂久馬、楠田信吾、工藤甲人、工藤哲巳、久保金平、熊倉順吉、児玉希望、斎藤義重、桜井孝身、佐藤敬、佐野猛夫、ポール・ジェンキンス、篠原有司男、嶋本昭三、下村良之介、白髪一雄、末松正樹、鈴木治、鷺見康夫、高瀬善明、高松次郎、田中敦子、田淵安一、辻管堂、津高和一、鶴岡政男、勅使河原蒼風、ジャン・デュビュッフエ、寺尾恍示、東松照明、堂本印象、堂本尚郎、利根山光人、マーク・トビー、中西夏之、名合孝之、難波田龍起、野村耕、野村久之、針生鎮郎、番浦省吾、比田井南谷、ジャン・フォートリエ、ルーチョ・フォンタナ、藤本能道、不動茂弥、冬木偉沙夫、サム・フランシス、星野眞吾、正延正俊、俣野衛、ジョルジュ・マチュー、松谷武判、丸木位里、三浦景生、三上誠、水谷勇夫、宮脇愛子、三輪晁勢、向井修二、向井良吉、村井正誠、村岡三郎、村上三郎、元永定正、本野東一、森田子龍、森野泰明、八木一夫、山内重太郎、山本敬輔、横山操、吉原治良、吉原通雄、ジャン=ポール・リオベル (順不同)

【関連イベント】

記念講演会 「異言としての絵画／文法を欠いた普通言語」(仮)

8月 6日(土) 午後2時～3時30分

講師 岡崎乾二郎氏(造形作家)

会場 京都国立近代美術館1階講堂

*聴講無料、先着100名(午後1時より1階受付にて整理券を配布します)

ギャラリー・トーク

8月14日(日) 午後1時～1時30分

9月 4日(日) 午後1時～1時30分

講師 平井章一(京都国立近代美術館 主任研究員・本展企画者)

会場 京都国立近代美術館 3階企画展示室

*聴講無料、要観覧券、開始10分前に1階インフォメーションにお集まりください

【映画上映】

NFC所蔵作品選集 MoMAK Films 2016

岡本太郎特集(仮)

9月10日(土)、11日(日) 各日午後2時～

会場 京都国立近代美術館1階講堂

料金 1プログラム 520円(当日券のみ)

【同時開催の小企画】

キュレトリアル・スタディズ 11: 七彩に集った作家たち

会期 7月27日(水)～9月19日(月・祝)

会場 京都国立近代美術館 4階コレクション・ギャラリー

【お問い合わせ】

京都国立近代美術館(岡崎公園内)

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

電話 075-761-4111

テレホンサービス(展覧会のご案内) 075-761-9900

http://www.momak.go.jp/

【観覧料】

	当日券	前売券	団体(20名以上)
一般	900円	700円	600円
大学生	500円	350円	250円

◎高校生および18歳未満、心身に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください。) ◎本料金でコレクション展もご覧いただけます。 ◎前売券は、7月28日までの期間限定発売。前売券の主な発売場所:ローソンチケット(Lコード58155)ほか、主要プレイガイド、コンビニエンスストアなど(チケット購入時に手数料がかかる場合があります)

【交通案内】

JR・近鉄～バスをご利用の方

- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行) 清水寺・銀閣寺行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

阪急電鉄・京阪電鉄～バスをご利用の方

- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 祇園・平安神宮行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

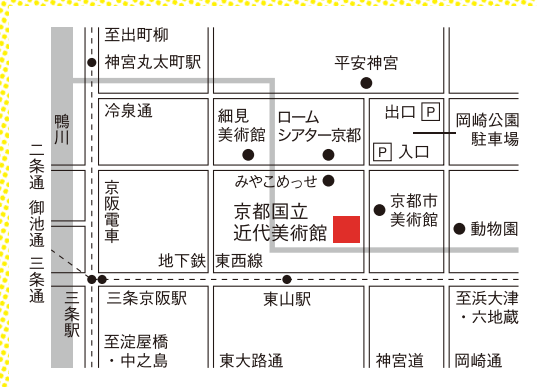
市バス他系統をご利用の方

- 市バス他系統「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」または「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

地下鉄をご利用の方

- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

※当館には駐車場がございません。岡崎公園駐車場(地下)をご利用ください。
※岡崎公園駐車場をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台につき1回)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。



あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術

めざめ “旋風”が覚醒させたもの

A Feverish Era: Art Informel and the Expansion of Japanese Artistic Expression in the 1950s and '60s

2016年7月29日{金}～9月11日{日}

開館時間:午前9時30分～午後5時まで、ただし金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日:毎週月曜日

主催:京都国立近代美術館

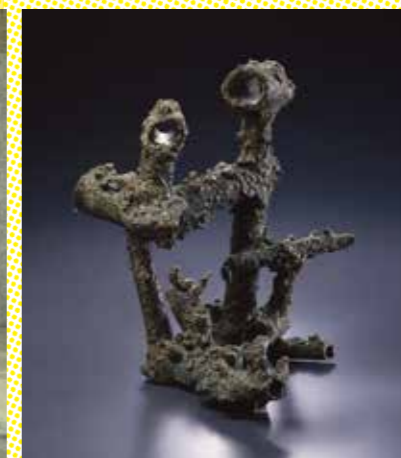
京都国立近代美術館(岡崎公園内)

The National Museum of Modern Art, Kyoto

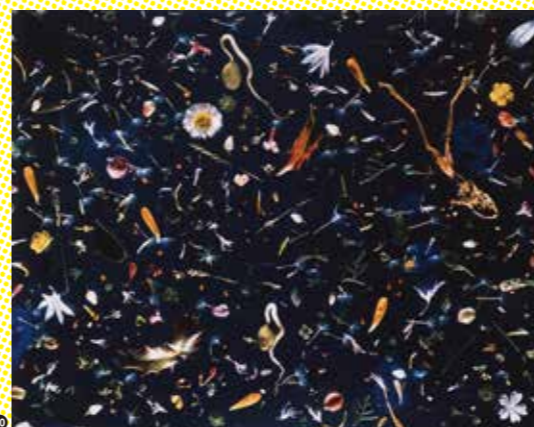
国民と国土が深く傷ついた敗戦から約10年が経ち、「もはや戦後ではない」が流行語となった1956(昭和31)年。パリで活躍する美術評論家ミシェル・タピエがセレクトし、「アンフォルメル」(未定形なるもの)と名付けた欧米の最新の美術作品群が、日本に上陸しました。

作者の行為(アクション)の痕跡や鮮烈な色彩、素材そのものの生々しい物質感を強調したこれらの作品は、戦中から戦後の占領下にかけて長らく外の世界との関係を閉ざされてきた日本の美術家たちに大きな衝撃を与え、以後数年にわたり、洋画や彫刻のみならず、日本画や陶芸、生け花といった日本の伝統的な表現ジャンルで、アンフォルメル風の“熱い”表現が爆発的に流行しました。そのすさまじさは、当時のメディア上での「アンフォルメル旋風」、「アンフォルメル・ショック」、「アンフォルメル台風」といった形容からも、うかがい知ることができます。

本展は、ジャンルの広範さと展開の多様さにおいて日本の美術史上例を見ないこの特筆すべき現象を、約100点の作品で紹介するものです。たんにアンフォルメルの様式的な影響や類似点、共通点を見るだけでなく、アンフォルメル上陸以前の作品も含め、あの時代、ジャンルを超え世代を超え、かくも多くの美術家たちが“熱い”表現を意識したのはなぜだったのか、日本の戦後の美術においてアンフォルメルが果たした役割とは何だったのかを考えます。



アンフォルメルという視点から、同時代の日本の美術を眺め直す試み



- ① ジョルジュ・マチュー《無題》一般財団法人草月会蔵
撮影: 内田芳孝 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 G0414
- ② 堂本印象《風神》1960年 京都府立堂本印象美術館蔵
- ③ 森田子龍《底》1955年 京都国立近代美術館蔵
- ④ 白髪一雄《天暗星青面獣》1960年 兵庫県立美術館蔵
- ⑤ 河井寛次郎《打葉扁壺》1962年 京都国立近代美術館蔵
- ⑥ 岡本太郎《燃える人》1955年 東京国立近代美術館蔵
- ⑦ 勅使河原蒼風《樹獣》一般財団法人草月会蔵
- ⑧ 熊倉順吉《作品》1950年代前半 滋賀県立陶芸の森陶芸館蔵
- ⑨ 向井良吉《蟻の城》1960年 東京国立近代美術館蔵
- ⑩ 東松照明《麁園 東京》1964年 国立国際美術館蔵
- ⑪ 荒川修作《ワックスマンの胸》1958-59年 国立国際美術館蔵
© 2016 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.
- ⑫ 岩田重義《WORK-139》1963年 京都国立近代美術館蔵

